

第1回米沢市立学校適正規模・適正配置等検討委員会 議事録

日 時 平成29年6月21日(水) 14:00~16:00

場 所 置賜総合文化センター 教育委員室

出席者 1号委員 尾形 健明委員、鈴木 一憲委員
2号委員 土屋 宏委員、岩倉 由美委員、山口 周治委員
3号委員 情野 彰浩委員
4号委員 涌井 旦一委員、板垣 正明委員、
玄番 京子委員、安部 友二委員

米沢市教育委員会

教育長 大河原 真樹、教育管理部長 菅野 紀生、
教育総務課長 我妻 祐一、課長補佐 小田 浩昭、
副主幹兼施設主査 庄司 哲朗
教育指導部長 佐藤 哲、学校教育課長 山口 博、
課長補佐 片桐茂、課長補佐 木村 智子、
学校財務主査 笹原 恵、学事主査 佐藤 多恵子
(進行) 学校教育課長補佐 片桐 茂
(3号委員 大町 竜哉氏、遠藤 貴裕氏は欠席)

資 料 次第、資料1 小中一貫教育の概要、資料2 小中一貫教育の実施状況
資料3 小中一貫教育に係る先進地視察について
資料4 小中一貫教育についての成果と課題等の調査結果
資料5 小中一貫教育の実態調査結果
資料6 本市における小中一貫教育について、資料データ集

議 事

(委嘱状交付)

- ・教育長より委嘱状が交付された。
- ・教育長 挨拶
- ・検討委員 自己紹介
- ・担当職員 自己紹介

(検討委員会)

- 1 学校教育課長より、委員会成立宣言がされる。
- 2 委員長の選出が行われ、委員長に尾形健明氏が選出された。
- 3 委員長 挨拶。
- 4 教育長より、委員長へ諮問書が渡された。
- 5 会議は公開とし、議事録は名前を伏せて要点だけの記載とする。

6 協議

(1) 事務局からの説明

教育指導部長 ①検討委員会の進め方について、「米沢市立学校適正規模・適正配置等検討委員会設置要綱」の説明をする。前回 H21～H22 年度に初めて設置され、今回同様に外部の委員を委嘱し、「米沢市立学校適正規模・適正配置等基本方針」の答申をいただいている。今回は 2 回目の設置となる。基本計画を策定した後、H24 年度に市教委から基本計画案をだし、全地区説明会とパブリックコメントを行い、H25.2 月に基本計画として報告している。米沢市を 4 地区に分けて、H32 年度に（仮称）南地区中の開校という内容のものである。

次に、市政協議会資料について説明する。基本計画にそって地元代表者協議会を開催し、（仮称）南地区中の建設にむけて準備を進めていたが、H26.12 月に計画の推進について一旦休止をした。理由として、(1) 文科省が進める小中一貫教育の動向を見極めるため (2) （仮称）南地区中建設にともなう諸問題のため進めていた計画を休止し、今に至っている。その後、小中一貫教育の研究を行うとともに、改訂の準備を市教委内で進めてきた。今までの中には、H26 年度に上郷小浅川分校の廃止や、H28 年度には南原中の第二中への統合方針という動きもあり、今年度を迎えている。

次に、今回の検討委員会の趣旨について説明する。教育長が諮問した本市における小中一貫教育について審議いただくこと、「適正規模・適正配置基本計画改定案」について審議いただくことの 2 点になる。本計画を進めるためには、一旦休止した小中一貫教育の現時点での方向性を示すことを考えている。その上で、具体的な改訂案を審議いただくことになる。南地区中はいつ出来るのか、あの話はどうなったのか、出来る学校は小中一貫なのかという声をいただいている。それに対して何年も伸ばす訳にはいかないので、現時点での方向性、新しい計画を示す時期がきたと考えている。

今後の日程について説明する。第 4 回までと考えている。第 1 回目については、本市における小中一貫教育についての意見をいただきたい。8,10 月については、市教委の計画案について審議をいただきたい。8,10 月に検討を重ねたもののパブリックコメントを実施しながら、今年度中に全体計画の改訂を考えている。任期は 2 年間とあるが、今年が勝負の年、来年度については必要に応じて進捗状況の報告や、新たな問題が出た場合の審議と考えている。この 1 年間の中で充実したものにしていきたい。大変重い内容ではあるが、少子化も進んでおり、学校施設の老朽

化も確実に進行しているので、よろしくお願ひしたい。

続いて②本市における小中一貫教育について説明する。郵送させていただいた資料について説明する。資料1小中一貫教育についての概要は、H28.12.26 付けの文科省の資料になる。資料に沿って説明する。資料2小中一貫教育の実施状況について説明する。義務教育学校については始まったばかりで、本市は小中連携教育のみ実施となる。資料3先進地視察の報告をする。資料4をわかりやすくまとめたものが、資料5になる。資料5について説明する。資料6については、小中一貫教育についてまとめたものになる。教職員間での共通認識がカギになる。本市の状況として、小中が連携しにくいのは、学校数の多さがあると考えられる。資料の説明と現時点での分析と考察について話させていただいた。委員の皆様のご審議をよろしくお願ひします。

委員長 かなり考察、現状認識が進んでいると感じた。先程のあいさつでもあったが、ゆくゆく米沢モデルが出来ればうれしいと思う。まず、委員の方から質問はないか。

委員 米沢市の小中学校の状況として、小中一貫教育に求める背景、理由、子供たちの実態はどのようにとらえているか。課題として解決したために小中一貫教育を進めていきたいというところは、どのように考えているのか。

教育指導部長 資料6のP4の3本市における「小中連携」の実際は、各学校区での不登校対策会議の中でどういう連携をしているのかを調べたものである。各小中学校での認識は様々であると思っている。市教委として研究授業はお互いの学校に行ってほしいと言っている。特に学区内では、先生方の授業や子供たちの様子を見てほしいと言っているが、実際は日程が調整できなかつたり、なかなか進んでいない。小中連携を進めるのか、小中一貫を進めていくのかの入口のところだと思っている。具体的に先生方に小中連携や小中一貫の理解を深めてもらい、本市ではどうなのか、やっていくのか、やっていくとすればどうなのかの状況把握から始まると思う。例えば、六中学区では、小学校3校が集まって交流しているようだ。1つの中学校に4つの小学校が行くところでは、なかなか難しいところがあり、市教委ではこういう実践をしてほしいということは言っていない状況だ。「だれもが行きたくなる学校づくり」では、特に北部小、興譲小、四中の先生方で一緒に研修をし、効果が上がったという例もある。

委員 状況を見ていく上で、これから米沢市には小中一貫教育は必要ないという判断もありうるか。意地の悪い言い方だが、六中学区では連携が進んでいて、他のところでは進められていないと不公平感があるという理由だけで、小中一貫教育についていいものであるから進めようという考え方だと、進んでいった後で、なぜ必要なのか、必要ないのではないかとということも出てくるのではないかと感じている。だとすれば、小中一貫教育を進めていかななくてはいけない米沢市の小中学校の教育の課題がこれとこれだから、進めていかななくてはいけないという先生方やいろんな方の共通に理解をしたところから進めていかななくてはいけないのではないかと考えたので質問した。

教育指導部長 資料6のP5の(4)にある公共性について記載したところをご心配いただいたと思うが、施設一体型の建物を建てて、その学校に通う子供たちについては小中一貫教育が行われていて、他の地区に関してなかなか進まないというのではよくないと思う。それであれば、どこの地区でも小中一貫教育が行われるように、まず共通の認識や目的を持つべきであり、先に建物を建てるのは進め方が違うのではないかと思いき記載した。

教育長 委員がおっしゃられたのは、市教委として小中連携教育が必要なのか、必要でなかったらやめて元に戻すのかということであるが、小中連携は絶対に必要だと思っている。以前から小学校中学校の違いをいう時に、小学校は授業が上手いけれども、中学校の先生は授業が下手だとか、中学校は生徒指導で解決するが、小学校は生徒指導の能力が弱いとか言われるが、そうではなくて、小学校の先生は授業が上手い背景には、小学校で扱っている教材が子供に提示しやすい教材で、中学、高校、大学に行くにつれて教材が難しくなっていく。そうした時に授業を子供が自主的に身につけていく作業が構築しにくいという。小学校の教育、中学校の教育の特色があって、誤解が生じたり、小学校は生徒指導が上手いかわけではなくて、発達段階に応じた指導ということで、それぞれやり方の違いがある。これを一本の線に結ぶともっと子供の実態にあった授業や指導が出来るのではないかと、そこは以前から認識していて、小中連携は必要だと言いながら、お互いなかなか踏み込めないところがあった。今回、一貫教育というより連携教育の方向に試してみよう、よりよい子供理解、小中の連携を緩やかにという趣旨ですので、上手いかわけから元に戻すということではない。小中連携教育を推進してい

きたい。小中一貫教育といった時に、まず連携をしっかりとしていきたい。

委員 この適正規模・適正配置等検討委員会で小中一貫教育について議論をする背景だが、そもそも適正規模・適正配置を検討しなくてはいけないということが課題としてあるわけだが、その中で、資料6のP5にあるように施設一体型が必要であれば、どこの地区につくろうかとか、全市で一体型でやろうかという議論になろうかと思うが、ここで小中一貫新設の施設一体型は無理があると提示されているなかで、適正規模・適正配置のなかで小中一貫教育が必要か、必要でないかの議論はなじまないのではないかという印象をもつ。むしろ、連携教育をどのように進めていったらいいのかというソフト面を、市教委や教育研究所で議論が進められる方が適しているのではないか。もしこの委員会の中で議論が必要なのであれば、一体型は無理なので、ソフト面で対応するという方向性を示しながら、適正規模・適正配置の案を出した時に、市民から小中一貫をどうするのかと言われた時に、検討をしていると答えることなのかと聞いていた。小中一貫校のあり方とか意味をここで議論しても、もっと大きな問題があるのではないか。適正規模・適正配置をこれまで検討してきていて、どこに中学校をつくるかの方が、議論として先行しなければならないのではないか。この議論は大事なことなので、それだけで何回も開催しなければならないのではないか。4回という短いなかで、小中一貫教育をどう扱うのか事務局で整理してもらい、一体型はすぐには対応しないという方向性を市教委で検討したという結論を出さないと、大事なことなので難しい気がして聞いている。もう1つは、中高一貫校が県内でも進んできているなかで、学力面でも中高一貫校は上がってきている。米沢市は検討しているのか、していないのか。他県でも中高一貫校にしたら、進学率が上がってきたと聞いたことがある。小中学校で議論する学力は、落ちこぼれの子供をつくらない教育のあり方とか、小中一貫教育が学習面でいいという捉え方だが、全体が上がっているのか、いい子が上がっているのか、落ちこぼれが減ったのかはわからない。米沢の中で中高一貫の動きがこれから出てきたときに、小中で固めたところでどうなるのか。この委員会で何を優先して議論していったらいいのかと思った。

教育指導部長 小中一貫教育と適正規模・適正配置等検討委員会の関係であるが、検討委員会の中で改訂案という具体的な話をした時に、市民の方の話として、小中一貫教育はどうしたのかということになると思う。どこの学校がという前に、現時点では教育内容の方から進めてはどうか

という現状分析について、委員の方に同意をいただいたところで、次の計画のところに進みたいと思っている。先程の質問にもあったが、本市にとって小中連携、小中一貫をどういうふうにするのかということについては、教育研究所の方で例えば小中連携推進委員や研究員という形で、継続検討していかなくてはいけないと思っている。実際、小学校、中学校の先生方にも聞きながらやっていくことは、地道なプロセスとして必要だと思う。今すぐに大きな建物をつくるのではない、建物が先ではなく中身だと現時点では考えているが、継続していかなければならないと思っている。中高一貫については、具体的に協議したこともないが、置賜としての議論になってくるのではないかと思う。

教育長 中高連携について、どんな形があり得るのか考えてみたところだが、東桜学館のようにモデル地区をつくって推移をみながらではあるが、もし作るとすれば、今回の小中学校の適正規模・適正配置とは別に、県教委と相談をしながら、選抜制で、そして県として中高連携の建物を建ててもらって、そこに米沢市全部から受験をして中高連携校にはいるという形が自然なのではないか。どこか1つの中学校を高校と連携させて中高連携校とするよりもいいのではないか。小中連携をふまえて、何年後かに中高連携という方向に考えていった方がいいのではないかと考えている。

委員 今の話を聞いて、連携するにあたって数的に難しいとあったが、連携がうまく進むことを念頭に置いて適正規模・適正配置をするということであれば連携が進むと思う。これまでだと、住民の希望だとか、中学校に行く時に小学校で別れるとか出されたが、連携教育は避けて通れない、やっていくとおっしゃられているので、その上で現在の配置を見直して適正な数を出すということがよいかと思う。

委員長 そうしてもらうのがよいと思う。小中連携ありきで、それをちゃんとやるための配置をどうするというところで諮問してもらおうと考えやすいし、4回だけの検討委員会をやるとすれば時間的な余裕もない。

教育指導部長 今のお話のとおりで、教員の工夫とか、ない時間を苦勞してというよりは、先程お話しした学校の配置や学校数ということもあるので、基本計画の改訂の時には、小中一貫教育を進めるためにも適正配置は大事であることをいれていきたいと考えている。具体的には、興譲小のようにバラバラに進学することもあるので、校長先生からも実態

をお話しいただきたい。

委員 興讓小では、進学先が一中、二中、四中に分かれている。子供の人数が減ってきて、40人ぐらいの子供が3校に分かれる。一昨年の例だと、二中と四中に進学した子供が1名ずつだった。これから子供の人数が減っていくので、日常的におきることになると、1つの小学校からは同じ中学校に行く連携、物理的にそうすることで、ソフト的にも充分できる。

委員長 他に質問、意見はないか。

委員 前回、この基本計画を一旦休止した時に、担当の教育指導部長をしていたが、なぜ休止したか振り返ると、この段階では、小学校、中学校別物で、中学校だけの統廃合を検討していた。小学校については、複式のある小学校について、H30年度から当該の学校の地域の方と話し合いをしていこうというぐらいで、小学校についてはまったく考えていない状況だった。ところが、小中一貫教育の考えが出てきて、校舎一体型でもいい、校舎分離型でもいい、それは市町村の判断でやっていいと言われた時に、小学校をどうするかということも計画の中に盛り込まないと前に進めない。すぐに答えは出ないということで休止した。今日、連携なり一貫という場合には、小学校中学校合せてどういうふうにしていくという青写真を描けるといいと思う。

委員長 保護者の方の意見はどうか。

委員 愛宕小は全て二中に進学するので、小学校側の保護者としてPTAなどは連携が取りやすい。二中側からすると4校から進学してくるので、それぞれに連携をとるのは大変だと思う。また、それぞれの中学校に分かれる場合も大変だと思う。今回の適正規模・適正配置基本計画で1つの小学校から別れないで中学校に進むのはいいと思った。

委員長 子供の立場に立つとどうか。

委員 バラバラになって1人しかその中学校に進学しないのでは不安はあると思うし、6年間という長い間過ごしてきた仲間が、ある程度分かれても1人しかいないのは大変だと思う。

委員長 他にないか。

委員 今年、関小から南原中に進学した子供は1人だった。関小では1年生から6年生まで1人でいた子供だったので、南原中に行くのがすごく楽しみで、友達が出来るといことが楽しみで、入学生代表として南原中であいさつした。関小は全学年複式学級になっているので、どの中学校に行っても同じだ。多いところに入るので、少ないなりに中1ギャップはあると思う。女の子は入れなくて悩んでいる子もいる。中1ギャップをなくすためには、一貫校がいいと思うが、南地区にだけ一貫校をつくって、他は連携校というのは市として大変だと思う。南地区中が出来るとい話があったので、一貫校の話も出てきたと思うが、小学校中学校が連携するのはいいと思うが、中学校に入学する時の子供の心情は変わらないと思う。

委員長 そういう心情もあるのですね。他にはないか。

委員 私個人も興譲小だったので、あの当時からマイノリティだったと思う。部活などもスポ少を小学校からやっている友人たちの連携の中に入っていけなかったり、今の子供たちはスポ少でもやりたければ他の地区まで行ってやったり、例えば二中体操部については、二中体操クラブとしてスポ少でやり、中学校では校外部として続ける道を探っているようだ。資料6のP3を見ると、H35に二中でプラス80人となるのは南原中の生徒さんだと思うが、それを前提としてみると、どこの中学校も減ることしかない。その中で、予算もないから今までどおり7つの中学校で、最終的に子供が全部の地区で壊滅的に少なくなるまでその体制でいくのか。先程校長先生がおっしゃったように、小学校を分散することによって子供の負担を考えるのか、やはり現状維持のまま先送りしても最終的には尻すぼみになることが見えている。そのあたりも踏まえて将来的に実現できる方法があればいいのではと思う。小中学校の連携について、教員でないのわからないところが多分にあるのだが、我々のような織物業界で着物の業界の人と洋服の業界の人が一緒に何かやりましようとなった時に、消費者からは同じ布地に見えるが、連携しなさいという指導は国や県からくるが、何をもって目標とするかということ、やっている人にうまみがあるかということで、WinWinでないとは続かない。我々が観光行政から依頼があつてやっているが、米沢織の浴衣や着物を観光客に着ていただきやすいように作ってほしいと言われている。二部式の着物を作ってやっている。それだと消費者は着るのが簡単で敷居も低く

なって Win、和装の方は和服を 1 着作ると何十万もかかるイメージなのが洋服の生地を洋服の裁断のようにして形は和服だが実際には洋服なんだということで縫製費等が安くなるので和服業界も Win、洋服地のメーカーにしてみれば今まで 3~4 メートル残ったものが、着物の生地は幅が狭いので、それでも十分な量がとれるので在庫がはけて Win。全て何も損をしないで結果が残ることをやっている。置き換えてみて、小学校でも中学校でも先生でも生徒でも父兄でも、何かみんながおいしい思いがあれば、結果が伴えば、みんながついてくるのではないかと思う。

委員長 まさしく米沢モデルですね。いろんなところで知恵を出し合うとうまく WinWin の関係になる。中学校側からはどうか。

委員 小中一貫と連携の定義づけからしなくてはいけないと思う。我が校には 4 つの小学校から進学してくるが、すべての児童が進学してくる小学校はない。それぞれが分かれて、それぞれの中学校に行くという状況なので、1 つの小学校が 1 つの中学校に進学することで解決できる課題もある。今我々が直面している様々な課題は資料 1 にもあるが、文科省から出されている課題が現実として我々は毎日闘っている。この問題を解決するには一貫教育が解決の一つの糸口、手段になるのではないかという思いから、当然一貫校を前提とした配置計画、適正配置を考えていくのがベストなのかと思う。ただ、一体型とか本市の学校の状況からにも書いてあるとおり、様々な人口のバランスや財政の問題などを考えれば、一体型というのは非常に難しいだろうと思う。今のように分離した形で、1 つの小学校が全部 1 つの中学校に行くという形にしながら、様々な課題を解決するには、9 年間を見通して一貫教育を進めていかななくてはいけないと思う。ただの連携だとなかなか我々が直面している課題が解決できるわけではなくて、マイノリティは少し解決できるかもしれないが、生徒指導など様々な問題はある。量的、質的な問題も出てくるし、解決するには分離型でも 9 年間を見通した教育を進めていくのが、今の課題を解決する 1 つの手段だとは思っている。

委員 何回か話になっているが、1 つの小学校はまとまって同じ中学校に行くのがよいと思う。他地区の話になるが、中学校と小学校の先生が集まったりして話す場面でも、保護者がはいて話す場面でも、同じ学校に行くとなると 9 年間を見通して話題がでてきて、この地区ではこの子供を育てるためにはこういうふうに保護者もして行こうということで、ポスターを作ったり頑張ることが出来たという実践を聞いたことがある。

我が校は三中にだけ進学するわけだが、中学生になった子供たちも活躍する場が小学校であったりすると、そこに中学校の先生がきて応援してくださったり、非常に連携に関してはうまく出来ると思っている。話題になっているとおり、中学校と小学校の関係はそうあった方がいいと思う。

委員長 1つの小学校がまとまって同じ中学校に行く。みなさんこういう方向性のようだ。

委員 「公共施設等総合管理計画（案）」を作る中で、ワークショップをやった。その中で、各施設とか小中学校、コミセンとのあり方はどうあればいいかの話し合いをした時に、将来は現在の小学校数、児童生徒数等から考えた時に、本当は米沢17地区に小学校を残すのがいいのだけでも、将来的には統合して、小学校は何校になるかわからないけれども、統合していくべきではないか。それにともなって中学校もある程度統合されていくべきでないかという話があった。ただコミセンについては、17地区に地域民との関係から残すということがあったが、それから考えると、いろんな話が出てきているように、小学校はある程度統合しながらどこかの中学校に集まっていく。例えば、昔なら広井郷中学校があったが、広幡、塩井、六郷が集まって1つの中学校をつくった。そのことを考えていくと、中学校も統合され、小学校も統合され、そして小中で一貫した教育がなされていくというのがいいのかという話になる。

委員長 他に意見をお持ちの方はないか。関小が二中に統合した時に随分遠くなるがどうか。

委員 山交バスは通っているが、時間帯が合わないので、スクールバスになると思う。今、関地区の中学生は山交バスを使っていて、市から定期券をもらっている。中学生の登下校はバスを使っていて、部活で遅くなる時はジャンボタクシーをだしてもらっている。中3の男子は上って行けるが、その後勉強するとなると大変だ。女子は暗いところを帰ってくるのは大変なので、すごく助かっている。体力は落ちるかもしれないが、二中に行ってもそのような感じになると思う。

委員長 二中には、1200名は入れないか。無理ですか。それも含めて次回の検討課題として諮問されているのは、本市における小中一貫教育のあり方についてだが、非常に重い話で、我々として意見は言えるが、適

正配置に関わった意見を申し上げるしかない。多分、文科省として少子化に対応する一つの方法として、やらざる負えなくなるだろうと資料を読んでいて感じた。日本の教育をなんとかするのが文科省の仕事なので、今は少ないが全国この方向に行くのではないかという印象を受けた。それに対して我々はどうかというと、米沢らしさをだそうとすると逆らうわけにはいかず、なかなか難しいところがある。適正配置という観点から、小中一貫や連携に対しての意見は言えると思う。ただ、連携ありきからスタートさせてもらってどうか。

委員 はい。

教育指導部長 今お話しがあったとおりで、意見をお聞きして、小中連携、小中一貫が進むような、学区というようなハード面の整備も必要だ。先程の WinWin の話もあったが、小学校の教員も中学校の教員も保護者もこれはいいという小中一貫のあり方は継続研究しなければならないと思う。視察に行った八潮市は生徒指導が大変で、なんとか出来ないかという強い思いで始まったら、子供が変わってきた。負担感から達成感に変わってきたということがあったようだ。強い共通意識を持って本市も取り組めば、いいことが増えてくるのかと思うので、引き続き検討していかなくてはと思う。中身の部分と学区的な部分を整備していかなくてはいけないと思う。適正規模の中にも小中一貫の考えが大事だとは言われている。その中で、小中一貫、小中連携を進めるためにも学校数を少し整理して、一小一中にする整備が必要という意見も盛り込めればと思う。先程の諮問は、今回で全て終わらせるわけではないので、いただいたご意見を形にして、最後に答申案、意見書の形でまとめたいと考えている。小中一貫教育から始まって、適正規模についてもふれていただいたので、次回については、より統合に関わる具体的なことについて示したいと思っているので、ご意見をいただきたい。また、教育管理部長より「公共施設等総合管理計画」について説明させていただく。

教育管理部長 前回、「適正規模・適正配置等基本計画」が H25.2 月に策定され、H29.3 月に「米沢市公共施設総合管理計画」が整備された。将来を見据えて、40 年で 40% の施設、20 年で 20% の現在の施設の面積を削減するという考えが示された。米沢市は、「まちづくり総合計画」が最上位計画で、その次に「公共施設総合管理計画」をもってきていて、持続可能な自治体経営を行うためには、身軽にならなければならないということの考えがあり、個別計画の一つとして「適正規模・適正配置等基

本計画」も入っている。その関係上、施設の数が今のままでいいかという
と当然よしとはしない。そういったものの見直しも充分考慮しながら
検討しなければならないと思っているので、よろしく願いしたい。

委員長 他の意見はないか。

委員 お願いというか、驚いたのだが、子供の出生数が H28 年度 504 人
にショックと驚きを感じた。600 人台からここにくるまで、あつという
間で、このピッチでいってどうなるのか。人口減、出生者数の減に合わ
せた形で計画を作っていたきたい。

委員長 いつも感じているのは、子供たち特に高校生（高校）が分散し
すぎている。まちなかに活気がない。興譲館や米工があった時は賑やか
だった。結局、高校生を大事にしない町は滅びるしかない。自分の故郷
がすごくいいという印象を子供たちに与えてやらないと帰ってこない。
同時に小学校からだ。もっと言えば幼稚園からかもしれない。そこから
言えば子供の立場で米沢は自分たちを大事にしてくれる町だというのが
あると、ちょっと違ってくると思う。重い課題である。まちづくりの計
画をたてる時に人口減少をどうやって食い止めるかという食い止めら
れないのが結論で、それを緩やかにしようという程度の話で、それを解
決するのも今の子供たちだ。我々では無理だとなれば、今の子供たちを
上手に教育して人材育成をして、この町を救ってくれると思う。大人
の意見というより、むしろ子供たちを大事にしていきたいと思う。

委員 先程小中一貫の話と一緒に中高一貫の話がでたが、それも魅力的
で、わが子は 3 人いて一番下の子が中 3 で今年受験だが、中高一貫校が
あればいい大学に行けるんじゃないかと思い、鶴工専に興味があつて話
を聞くと、先輩のお母さんたちは距離が遠いという。「まちづくり総合計
画」にもあったことだが、学園都市というところから国立の専門学校と
か中高一貫校とか米沢市の計画の中に入れてほしいと思う。

委員長 今回の適正配置にも米沢方式というキャッチフレーズがつくと
面白いと思う。

委員 高校生が増えれば、人口も増えるかもしれない。

委員長 女性をたくさん地元に着してもらえる工夫があるのか。特に

米商の先生から言われたことがあって、商業科が 2 クラスになったが、そこが女子高生を多く受け入れられる一つの学校であった。女性は米商を卒業して地元に着する傾向があって、あと山大の学生を地元に残す。3500 人位学生がいるが全員は住民票をもってきていない。1 割ぐらいしか米沢に住民票を移していない。なぜ移さないのかというと保険証のことがある。住民票を移せば米沢も変わるかも知れない。山大の学生も米短の学生も同じだと思う。

委員 管理栄養士については、国家試験との関係で住民票のあるところで試験を受けるので言いやすい。

委員長 いろんな課題を出してもらってやっていきたい。

教育指導部長 先程、興譲小から二中、四中に進学した児童が 1 名ずつとあったが、それは男子生徒の人数であった。女子生徒をいれると 7~8 人位になる。中部地区の市長を囲む座談会の時も話題になった。

委員長 他になれば、次回の日程はどうか。

教育指導部長 次回はお盆明けの 8 月後半を考えている。日程調整をさせていただいて案内する。その時に会議をまとめたもの、適正規模・適正配置等基本計画の改定案を審議いただきたい。

6 その他
なし